

# JBC NHK杯 第54回全日本選抜選手権

5月14~16日/新狭山グランドボウル

## 男子・宮澤拓哉、女子・石本美来 選手 難コンディションでも実力発揮



▲同じ24歳、同級生の石本選手(左)と宮澤選手が選手権者に

コロナ禍で1年ぶりの開催となった『NHK杯第54回全日本選抜ボウリング選手権大会』は、密を避けるために大幅に競技方法を変更するなど、厳重な感染対策の上で実施された。難しいレーンコンディションに多くの選手が苦戦するなか、男子は宮澤拓哉選手(群馬)が悲願の初優勝を飾れば、女子は石本美来選手(広島)が5年ぶり2度目の制覇と、ともにナショナルチームでも中心的な働きが期待されるふたりが、真価を発揮して頂点に立った。(主催：(公財)全日本ボウリング協会)

今大会には、出場資格を有する男子136名、女子101名が参加、予選は男女それぞれA、Bの2組に分かれ予選9Gを投球、各組の上位6名が準決勝に進出、準決勝6Gの15Gトータル上位4名を決勝エリミネーターに選出した。

### 男子

予選を2131で全体1位通過の宮澤拓哉選手(群馬)が、準決勝前半を715、後半は1G目の300を含む814とさらにペースを上げて、トータル3660の独走で決勝進出を決めた。2位には両手投げの東海純選手(学連)が3478で続き、今年の選考会でナショナルチーム入りを果たすなど、最近急成長の木村晃選手(神奈川)が3355で3位、そして同じナショナルチームメンバーの齋藤翔選手(学連)が3321の4位で進出した。

決勝エリミネーターの3、4位決定戦は、4名が1Gを投球し、上位2名が選手権者決定戦に進出する。宮澤選手は5フレからのフォースで抜け出し、ノーミスの229で1位通過を果たした。2フレからのフォースで前半をリードしていた木村選手が、後半やや苦しんだものの216でもう一枠を確保した。

選手権者決定戦は、ダブルスタートの宮澤選手に対し、木村選手は1フレ、薄目で2ピンを



残すと、カバーミスでオープンのスタート。宮澤選手が5フレから2つ目のダブルを持ってくと、木村選手は6フレ②⑧⑩のスプリット、さらに8フレも②④⑧⑩のスプリット。「力を抜こうと思いつつ、かんでしまった」と142に終わった。

一方の宮澤選手は、このゲームもノーミス、3つのダブルで224。ナショナルチームの先輩としての貫録を示す快勝で、初優勝を飾った。

### ◎宮澤選手のコメント

これまでNHK杯は準決勝に進むのがやっとという感じだったけど、今回は予選の段階でレーンコンディションが自分に合っていて、チャンスがあると思った。決勝エリミネーターは、トップで進んで、しかも(24歳



▶「決勝はレーンの変化に対応できなかったと木村選手。しかし最近の急成長を示す準優勝



▶両手投げからの高回転ボールも、決勝のレーンには苦戦して3位の東海選手

の)自分がいちばん年上だったので、負けられないと思った。攻め方はいくつか手段があつて迷ったけど、安全策をとって先の動きがおとなしいウレタンボールを選択したが、うまく合わせられた。



▲決勝のレーンを最後まで攻略することができず4位の齋藤選手

### 女子

予選は大河内未来選手(福島)が1797の全体1位で通過したが、準決勝進出の12名が約80ピン差にひしめく混戦となっていた。準決勝では予選A組1位の新畑加奈選手(三重)



▲社会人2年目の石本選手「コロナ禍で試合がない期間もポジティブにとらえて、フォームの改造とかにチャレンジしてきた」



▶ナショナルチームのキャプテンでもある佐藤選手「全国放送でこんなボウリングを見せてしまつて申し訳ないです」



▶ナショナルチームメンバーを抑え1位で決勝進出も「10ピンが飛んでくれなかった」と3位の新畑選手

が1294と伸ばして、トータル3061で1位通過。5年ぶり2度目の優勝を狙う石本選手が26ピン差の2位、前半724を打って、一度はトップに立った谷原美来選手(三重)が3013で3位、そしてナショナルチームのキャプテンを務める佐藤悠里選手(神奈川)が2922の4位で決勝進出を決め、大河内選手は11ピン及ばず次点にとどまった。

4名によるエリミネーターは、なかなかストライクが出ない我慢の展開となった。そのなかでも3フレからダブル、8フレから2つめのダブルで214を打った石本選手がまずは勝ち抜けた。そしてストライクは9フレの1個だけだったが、ノーミスで186とまとめた佐藤選手が選手権者決定戦への切符を手にした。

選手権者決定戦は、思いがけない展開となった。ダブルスタートの石本選手に対し、1フレ④⑦をカバーミスでオープンスタートの佐藤選手が、2フレはビッグファイブで連続オープン。その後も「やることなすこと、全部裏目にしちゃった」と、7フレからは3連続スプリットなどで、120の不本意なスコアに終わった。石本選手も「間

に男子のゲームがあつて、想像以上にキャリーダウンが激しかった」と振り返ったとおり、苦心の投球だったが、189とまとめて2度目の選手権者に輝いた。

### ◎石本選手のコメント

最後のゲームはレーンがすごく難しくなっていた。これまで1Gマッチでは、スプリットやワッシャーなどが命取りになるのを身にしみ感じていたので、とりあえず8本、9本を倒して次につなげることが大事だと思った。NHK杯は6大会連続で決勝には残っていて、応援して下さる方たちにも残念だったねと言われていたので、やっと優勝報告ができる感じ。会社にもいいところを見せたかったの、その面でもよかった。



▲前回2位のリベンジを狙ったサウスポーの谷原選手だが、ストライクがつかず4位にとどまった

●男子 3・4位決定戦		優勝決定戦	
宮澤 拓哉	229	224	優勝
東海 純	194		
木村 晃	216	142	
齋藤 翔	142		

●女子 3・4位決定戦		優勝決定戦	
新畑 加奈	178		
石本 美来	214	189	優勝
谷原 美来	159		
佐藤 悠里	186	120	